

会議録【概要】

日時：令和6年6月21日（金） 14：30～15：30 会場：岩手県立宮古北高等学校 大会議室

会議名：令和6年度 岩手県立宮古北高等学校 第1回学校運営協議会

進行：鈴木明宏（宮古北高等学校／副校長） 記録：鈴木明宏

出席者：【学校運営協議会委員】早川輝氏（NPO法人みやっこベース理事長）、藤田恵氏（田老福祉センターセンター長）、加藤洋一郎氏（加藤昇一商店店主）、田中和七氏（田老地区復興まちづくり協議会会長）、小向広幸氏（三陸鉄道株式会社 運行本部 運行部 運転課長）、久保田亮二氏（宮古市田老総合事務所 所長）
三浦顕悟（宮古北高校校長）、鈴木明宏（宮古北高校副校長）、浜田孝高（宮古北高校事務長）

【次第及び主な発言】

1 開会

2 学校長挨拶

3 出席者自己紹介

4 学校概況説明

5 協議・情報交換

① 令和6年度 岩手県立宮古北高等学校経営計画について

② 「特色化・魅力化ビジョン」について

- ・田老大漁まつりのボランティア、非常に助かった。生徒の1人の太鼓が素晴らしく、感心した。いろいろなところで活躍しており。その活躍を誰かが見ている。
→「誰かが見ている」ということは生徒に是非伝えたい。
- ・オリンピック見学させていただき、進行役の生徒が上手であった。社会に出るといろいろな人と関わらなくてはならないので、良い経験だと思う。みんなで一緒に何かに取り組むことで、思わぬ適性が見つかることもある。友人や先生方に褒められると自信に繋がっていくのではないかな。また、わからないときに「聞ける人」になってほしい。
- ・オリンピックでは明るい表情、普段見たことがない表情を見ることができて良かった。地域の方々にもアナウンスして見てもらったらどうか。地域の力を借りて（頼って）人間力を育てることも重要。地域のために生きることも素晴らしいが、自分の幸せのために地域貢献するという考えもあって良いのではないかな。
→オリンピックの地域向けアナウンスは検討する。
- ・ボランティアをする際に、「ボランティアの意義」をしっかりと理解した上での活動としてほしい。また生徒のみでの活動だけでなく、住民と一緒にやる活動が多くなることを期待する。
- ・オリンピックでは、3年生が1、2年生を応援する場面もあった。上級生が下級生を思いやることはとても良いことである。学校外での学びも大切である。どんどん地域に出て行ってほしい。北高で良かったと生徒が思うような活動を期待する。
- ・オリンピックは生徒が楽しそうで、また別の一面を見ることができて良かった。社会に出たときのためにより多くの大人と接する機会をつくり、生き方・在り方指導をより充実させていくことも必要ではないかな。じっくり1つのことを継続して取り組むことも必要で、特色ある教育課程の見直しも必要なのかも知れない。

③ 令和6年度 宮古北高校「総合的な探究の時間」実施計画について

- ・昨年度までよりスリム化がなされているが、単発的になっている部分もある。1つのことをより深く、継続的にできれば、生徒の学びも深まるのではないかな。

6 その他

- ・宮古短大に多くの生徒を入れてほしい。

7 閉会